

平成 28 年度第 2 回学校協議会実施報告

実施日時：平成 28 年 11 月 29 日（火）午後 5 時～7 時

実施場所：本校会議室

学校協議会委員出席者（五十音順）

塩見委員、田中委員、田峰委員、春山委員、人見委員

事務局出席者

松浦（校長）、尚山（教頭）、富澤（事務長）、藤井（首席）、川村（首席）、
原田（教諭・教務主任）、松本（教諭・人権ネットワーク部長）

I. 次第

(1) 校長挨拶

(2) 本校の現状報告（校長、川村、尚山）

- ・再編整備計画について
- ・授業改善の取り組みについて
- ・28 年度第 1 回授業アンケートについて

(3) 質疑・応答

内容

< 挨拶 >

校長より

< 現状報告 1 >

再編整備計画について説明(校長)

- ・平成 30 年度入学生より普通科コース制に改編される
- ・現在、教育内容について検討を進めている
- ・いくつかのコースを検討している。生徒は入学後、2 年からがコースに分かれる。
- ・コース制としての選択授業は、2 年生 6 単位、3 年生 6 単位を想定している
- ・残りの生徒は、いわゆる普通の普通科(総合系・理系など)に所属することになる

<現状報告2>

授業改善の取り組みについて(川村)

- ・全教員対象の公開授業を年2回、5月と11月に実施した
- ・公開授業を受けて、それぞれ研究討議を行った
- ・第2回については、初任者の研究授業を実施した
- ・公開授業のための授業見学シートを作成した。このシートについて、学校協議委員のかたに意見を伺いたい

<現状報告3>

28年度第1回授業アンケートについて(尚山)

- ・全生徒対象の授業アンケートを年2回、1学期末・2学期末のそれぞれの終業式で実施
- ・第1回の集計結果について、教科別・質問項目別に報告する
- ・全体の平均値が3.2(中央値2.5)なので、生徒は授業をかなり肯定的に評価している
- ・ICTを活用している教科や、生徒が能動的な実技系の教科の評価が高かった
- ・初任者の研究授業では、生徒の話し合いを取り入れた意欲的な取り組みが見られた
- ・知識注入型の授業形態のみならず、生徒が能動的に取り組める授業形態が望まれる
- ・今後は授業のユニバーサルデザインを踏まえ、全生徒に分かりやすい授業を心がける
- ・アクティブラーニングの授業形態や観点別評価について、年間計画に取り入れていく

意見交換

委員：コース別になるということで、頑張ってくださいたい。幼稚園から大学まで、次期指導要領の改正をめざしている。大学もアクティブラーニングに取り組む。ただ、アウトプットばかり重視し、インプットが軽視されている。元のところの知識が大事。芸術系は元々アクティブであるが、発想力や時間的計画の把握など、教師がどのようにコンダクトしていくか。どのようにインプットしていくか。アウトプットの形式だけならできる。持久力・コミュニケーション力など本来の身になる力がつくか。実際のアクティブな授業を知らせてほしい。期待している。身についてくる知識がないとアクティブの意味がない。これからの教育の意識として具体化してほしい。

事務局：大学のAO入試も変わっていく。どのように変わるのか?

委員：国立大学が早々に変わっていく。私立大学はこれから。忍耐力・発想力・コミュニケーション力を測るよう言われている。面接官が聞くだけではこのような力は測れない。知識だけではないところの新しい形式がつくられていく。

事務局：私学の変化については?

委員：もう2,3年で私学でも変わるだろう。文部科学省を先取りするところが出てくる。

事務局：コミュニケーション力を磨くコースは新しいタイプの入試にも対応できるよう

になる。

委員：主流とは言わないが、国立大学の入試には出てくるだろう。企業のやっている就職試験に近いもの。来年あたりから。どのように測定するか分からないが。

委員：アクティブラーニングは取り入れていかないと。ただ、コミュニケーションだけでは、基礎基本が無い中で作業だけで、力がついているのか。班活動において基本的な知識を持っている子がしゃべって、それを他の子が聞いているだけ。もっと深いところを問うていかねばならない。生徒のつぶやきを拾いながら「何でこうなるの?」ということに答えを返していかねばならない。答えられないことにどのように指示してやれるか。ユニバーサルデザインにおいても今日の目的をしっかりと明示し、違うことには「今日の目的は違うよ。」と言ってやらないと。

委員：高校でも授業見学シートを実施しているのか?

事務局：最近のこと。

委員：シートを活用することで、どの観点で授業を観るのか明らかになる。先生が目標を持つ。見学している人が自分自身に返すこともできる。自分ができてないところを振り返り、先生自身のアクティブラーニングになる。

委員：アジアの学生との交流で、日本の大学が10校ほど参加した。以前より増加した。また、日本の大学が海外からの留学生をハードルを下げ受け入れている。将来的には、海外からの学生とバトルする入試が始まる。知識をインプットすることが大事。生きる力とは、将来やりたいことは何かはっきりさせるのが大事。生徒のつぶやきを拾う。気づき・瞑想・ふとした直感をやらせることが大事。

委員：学生時代、化学は面白くなかった。資格を取るために、卒業してから自分でやったら面白かった。生徒からすると、先生はその人しかいない。違う先生なら面白かったかも。ある先生はミニプリントを毎日持ち帰らせる。進んだことを定着させる。独自のノウハウを持った先生に当たればいいが、生徒にとっては損得がある。先生自慢のノウハウを共有できればいい。20年間作り貯めたプリントを秘密にして抱え込まず、提供してくれたら全体的に深まる。

委員：親の立場から言う。先生同士が授業見学をするのは大事なこと。子どもは「あの先生はどうも…」と逃げ口実にする。親としては、宿題を家で見ながら子どもを学校に行かせている。間違っているのに○をつけている。答えだけで○をつけるのでは想像力がつかない。考え方、答えの出し方の違いを知らない。子どもは生活のほとんどは学校。先生の影響は大きい。

先生の悪口は言わないようにしている。人間力をつけるには家庭との連携も大事。コース制については美術系に行きたい、教師になりたい、初めてのことで分からない。勉強しているうちに変わる。決めてから入ると困ることになる。

事務局：観点別評価について、中学校などでは取り入れられていると思うが…

委員：4観点あるが、毎回授業の後、振り返りシートを書かせる。きっちりと分かったか授業中の中で評価する。また、テストの中で基礎・基本が分かっているかのみに全体を100点満点で評価するのではない。各観点25%ずつ評価し、一つ一つがA(～80%)、B、C(40%～)の3段階で評価する。そして考査も含めトータルで点数化する。テストだけが良くて、80点以上であっても5とはならない。5教科においては各学期、中間・期末ごと、年間5回評価をしている。

委員：進路保障協議会で話題になっていることがある。中学校で、こういう職業に就きたいと思っても、将来、職自体が無くなっているかも。カメラ屋が無くなり、デジカメを電気屋で、になっている。高校生はどのように考えているか？

事務局：就職指導について、転換点に来ている。職業の斡旋も変わってきている。この仕事に就きたい、ということで体験学習をし、仮にカメラ屋が無くても体験で出会ったこと、頑張っている人を見て生き方を学ぶ、など変化に対応できる人間作りをしている。夢を見ることは大事で他のことにもつないでいける。

委員：残っていく現在の職の予想は100もなかった。最終は20種類くらい？教師や保育士は残るが、その他はロボットやコンピュータが代替となる。

委員：対人は無くならないが、対物は無くなっていく。進みたい子どもは多いが…

委員：人生の80%は偶発的に出会ったものに縛られる。なので、子どもには学び方を教える。一生、一つのことですまくいくとは思えない。めざすのはいいが、他のことも考えておく。その時期がいつくるか？30過ぎてからくるとしんどい。

委員：海外へ日本から行った大学院生は、あなたは何者か？と聞かれて、答えることができない。あなたは何をしてくれるか？ということにも。どんなところに就職したいか？ということに関しても。

委員：日本の学生は、休みや給料を気にする？労働条件を気にする学生はまだ、まし。会社の人間関係はよいか？休む人は少ないか？やめる人は？…。それは自分で作っていくもの。学生にはいつになっても学問をできる力、忍耐力やコミュニケーション力など、まさに生きる力をつけたい。

事務局：たくさんのご意見、ありがとうございました。今後の学校運営に活かさせていただきます。次回は2月下旬を予定している。日程はまた、調整させていただきます。開始時刻について、次も17:00くらいで検討させていただきます。